立候補者一覧

役員候補者選挙について
　役員候補者選挙の立候補者一覧を掲載します。
　「理事候補者」への立候補者が定数を超えたため、**代議員**は投票期間内に投票をお願いいたします。

備考：この立候補者一覧は、立候補者から登録された内容をそのまま掲載したものです。

	定数	立候補者数
理事候補者	22 名	41 名
監事候補者	2 名	2 名

投票期間　**2026年12月7日（月）正午～2026年12月14日（月）正午**
投票方法　電子投票（インターネット投票）
　・パソコン、タブレット、スマートフォンから投票可能です
　・協会ホームページのマイページからアクセス
　　URL（パソコン、タブレット、スマートフォン共通）

https://mypage.japanpt.or.jp/mypage/login

2026年11月25日

公益社団法人　日本理学療法士協会
選挙管理委員会

理事候補者

定 数　：　22名

立候補者数：　41名

※投票は定数内制限連記方式です。
（11名以上22名以内の投票が有効となります）

備考：掲載順序は、立候補届受付順（最終申請日時順）としています。



氏名　　平野　明日香

氏名ふりがな　ひらの　あすか

都道府県士会　愛知県

年齢　　44

勤務先名称　　藤田医科大学病院

立候補の趣旨

　私はこれまで、日本理学療法士協会では、急性期における職域拡大や臨床教育などの職能活動に携わり、県士会では、診療報酬の正しい理解の普及や教育研修活動などを通じて、質の高い医療の提供に取り組んでまいりました。また、日本神経理学療法学会の理事として、各都道府県における拠点設置を通じて、学び合い、支え合える仲間づくりを推進してまいりました。
　こうした活動や日々の臨床から、施設間の情報共有や多職種連携の重要性を実感してきました。全国の施設間、ならびに他の医療専門職団体との連携を強化するためには、まず協会内で互いの意見を尊重し合い、率直な意見を交わしながら、共通の目標に向かって協働できる関係づくりが必要であると考えています。こうした連携を通じて、理学療法士の専門性を十分に発揮できる環境づくりに貢献したいと考え、このたび初めて理事に立候補いたしました。
　大学病院で培った臨床・研究・教育・管理等の経験を生かし、現場の声や臨床知を協会内で共有するとともに、多様な意見を協会の活動や方針に反映できるように努めてまいります。人と人、組織と組織をつなぎ、理学療法の未来を切り拓く力になるよう、取り組んでまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

２０１７年～２０１８年：日本理学療法士協会　職能関連業務執行委員会
　　（急性期における理学療法士活指針モデル事業）協力委員
２０１７年～２０２１年：日本理学療法士学会
　　ガイドライン・用語策定委員会　作成グループ（脳卒中）班員
２０１９年　　：日本理学療法士協会　臨床実習指導者（中央）講習会世話人
２０２０年～現在：日本理学療法士協会　診療報酬改定に向けた検討会　構成員
２０２１年～現在：日本神経理学療法学会　理事
２０２２年～現在：日本理学療法学会連合　診療報酬に係るエビデンス構築委員会　委員
２０２５年～現在：愛知県理学療法士会　理事
２０２６年～現在：専門理学療法士見直し部会　副部会長　等



氏名　　佐々木　嘉光

氏名ふりがな　ささき　よしみつ

都道府県士会　東京都

年齢　　49

勤務先名称　　（公社）日本理学療法士協会

立候補の趣旨

『会員と共に、道を切り拓き、共に歩み、以て国民の暮らしを支える』
　全国の理学療法士の生活を豊かにし、働きがいをもって業務に専念できる環境を、会員と共に作り上げることが、理事者の使命であると考えています。そして、日本のどこに住んでいても、誰もが一定レベル以上の理学療法と専門的支援を受けられる社会にすることが、私の目標であり、これまでも取り組んできました。
　今回私は、これから２０年、３０年先を見据え、広く国民に質の高い理学療法と専門的支援を提供するために、日本の理学療法を築き上げてきた先輩理学療法士の考えや想い、決断の歴史を引き継ぎつつ、理学療法士の未来を切り拓き、新たな道を作りたいと思い、８度目の立候補をさせていただきました。近年の理学療法士に係る急速な社会的役割の変化は、人口減少社会やＡＸ・ＤＸの進展に伴い、日本が新たな社会を形成するにあたり、国家戦略として理学療法士の活用が欠かせないという認識が浸透したためと考えます。
　私は、この機会を逃さず、以下４つの取り組みを推進したいと考えています。
○　会員の約９割が従事する医療・介護・障害福祉現場を、働きがいを持てる仕事とする
○　会員に魅力のある事業や学習環境を提供すること（成長の実感と将来への期待創出）
○　学会連合との学術活動、都道府県士会・連盟等とのアドボカシー活動等に一体的に取り組むこと
○　働く世代に対する専門的支援の役割を充実させ、真の社会復帰を実現すること
　これらの取り組みを推進するため、私は協会・都道府県士会役員の経験に加え、約１８年の臨床、約２年の厚生労働省出向、約２年の協会事務局職員と約６年の専従役員により培った視野と人脈を活かし、理学療法士、そして国民の皆様のために尽力いたします。また、今後さらに、現場で尽力している全国の理学療法士はもちろん、行政府・立法府・関係団体等の皆様との人脈を広め、課題を乗り越えてまいります。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

平成１９年４月～　静岡県理学療法士会理事、副会長（５期１０年）
平成２１年６月～　協会代議員（２期４年）
平成２４年６月～　協会理事、常務理事、副会長（７期１２年４か月）



氏名　土居　誠治

氏名ふりがな　どい　せいじ

都道府県士会　愛媛県

年齢　44

勤務先名称　愛媛十全医療学院

立候補の趣旨

理事選挙に立候補いたしました、土居誠治と申します。私が目指すのは、新入会員からシニア会員まで、すべての会員がそれぞれの立場で活躍できるＰＴ協会です。その実現に向け、協会と都道府県理学療法士（協）会が連携し、さらに連盟・学会連合とも一体となって活動できる組織体制の構築と制度設計に取り組む決意です。２００４年の入会以来、県士会の学術部員として活動し、２０１６年から教育部長、２０２０年から副会長・事務局長として、士会運営全般に携わってまいりました。協会では、新入会促進、新人研修、生涯学習制度に関する委員会・部会に参画し、現在は専門理学療法士制度見直し部会長、生涯学習制度検討部会員を務めています。また、産業保健・人間工学推進リーダー制度構築検討部会員、組織・規則等検証委員会委員としても活動しています。現職の士会事務局長の経験と、協会の幅広い委員会を通して制度設計に関わっている経験を生かし、次の５つの課題に取り組みます。①新入会の促進と、会員の継続的な支援体制の強化。②会員が学び続け、成長を実感できる生涯学習制度の構築。③協会・士会が一体となって活動できる組織体制の強化。④転倒予防・腰痛予防をはじめとする産業領域の発展。⑤協会・士会・連盟・学会連合の連携を強化し、組織力・政策実現力を高めるとともに、組織内候補を安定して国政へ送り出せる体制づくり。現場の声を大切にし、会員の皆様とともに、理学療法士の未来を切り拓く協会づくりに全力で取り組んでまいります。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

◇日本理学療法士協会：①２０１９～２０２２：新人研修ガイドライン作成委員会委員②２０２１～２０２２：実地研修教材検討部会委員③２０２３～２０２４：新入会促進検討部会構成員④２０２５～現在：産業保健・人間工学推進リーダー制度構築検討部会部会員⑤２０２５～現在：組織・規則等検証委員会委員⑥２０２６～現在：専門理学療法士制度見直し部会部会長⑦２０２６～現在：生涯学習制度検討部会部会員⑧２０２６～現在：日本理学療法士協会代議員◇愛媛県理学療法士会①２００４～２０１６：学術局学術部部員②２０１６～２０１８：学術局教育部部長（生涯学習担当）③２０１８～２０２０：学術局理事（生涯学習担当）④２０１９～２０２６：臨床実習指導者講習会責任者⑤２０２０～現在：副会長・事務局長・理事◇四国理学療法士学会①２０１９～現在：評議員



氏名　熊崎　大輔

氏名ふりがな　くまざき　だいすけ

都道府県士会　大阪府

年齢　50

勤務先名称　関西医療学園専門学校　理学療法学科

立候補の趣旨

　このたび、公益社団法人日本理学療法士協会（以下　協会）の理事に立候補致しました熊崎大輔でございます。私はこれまで公益社団法人大阪府理学療法士会（以下　府士会）の理事を９期１８年務めてまいりました。そのうち、会長を４期８年させていただいております。また協会では代議員を１５年、各種委員会等の委員も務めさせていただきました。前任期では、みなさまのご支援もあり協会理事に就任させていただきました。
　近年は社会状況や価値観の変化から、新入会者数の減少や休退会者数の増加により、組織率の低下が大きな課題になっております。この組織率の課題を何とかしたい、また協会と都道府県士会の連携・協力体制を強化し、会員が所属していて良かったと思う組織にしたいという想いで協会理事を志しました。それは今でも全く変わっておりません。前任期では、生涯学習制度検討部会の部会員、会員活動評価制度検討部会の部会長、法改正検討特別委員会の委員もさせていただきました。しかし、協会を良くするためには、まだまだやるべきこと、改善できることがあると考えております。
　若輩者ではありますが、これまでの協会や士会活動での経験を活かし、協会を魅力的な組織にしたいと考えています。会員みなさまの満足度を高めることにより、理学療法士がこれまで以上に患者や利用者に貢献できることを目指します。精一杯頑張りますので、ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

【日本理学療法士協会】
理事（令和７年度～）、生涯学習制度検討部会（令和８年度～）
会員活動評価制度検討部会（令和８年度～）、法改正検討特別委員会（令和８年度～）
代議員（平成２２年度～令和６年度）、その他過去委員会等

【大阪府理学療法士会】
事務局担当理事（平成２１～２２年度）、事務局長（平成２３～３０年度）
会長（平成３１年度～）



氏名　　増田　崇

氏名ふりがな　ますだ　たかし

都道府県士会　奈良県

年齢　　55

勤務先名称　　奈良県総合医療センター

立候補の趣旨

　この度、日本理学療法士協会理事に初めて立候補いたしました。
これまで都道府県士会において、２０年以上にわたり事務局長・副会長・会長として現場の士会運営を行い、会員支援や地域での理学療法の普及・発展に取り組んでまいりました。また、日本協会においても組織財政、士会支援、表彰委員会、ガバナンス構築など、主に組織の根幹・基盤を支える実務・事業運営に長年携わってまいりました。
　組織運営協議会等においては、現場（都道府県士会）の声を反映させつつ、日本協会との強固な連携体制の構築を目指して提言を続けてまいりました。これからの社会における理学療法士の職域拡大と社会的地位向上を果たすためには、その土台となる「持続可能で透明性の高い組織基盤」の確立が不可欠であると思っています。
〇理事として、以下の重点課題に全力で取り組みます。
　１．持続可能で透明性の高いガバナンス・コンプライアンス体制の強化
　２．日本協会と都道府県士会の双方向な連携・支援体制の深化
　３．将来を見据えた組織財政基盤と効率的な事業運営体制の再構築
長年の士会・協会実務で培った知見と現場感覚を活かし、協会の盤石な基礎地盤を固め、会員の声を大切にしながら、信頼され、持続可能な協会運営の実現に向けて着実に取り組んでまいります。ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

２００９年度～現在	代議員（１８年目）
２０１１～２０１２年度	組織部員（２年）
２０１３～２０１４年度	組織財政委員（２年）
２０２１～２０２２年度	士会支援事業部員（２年）
２０２１年度～現在	表彰委員長（６年目）
２０２６年度～現在	ガバナンスとコンプライアンス検討・構築作業部会員（１年目）
２０２６年度～現在	総会議事運営委員　（１年目）
２０２１年大会	第７回日本呼吸理学療法学会学術大会　準備委員長
２０１９年度～現在	奈良県理学療法士協会　会長　（８年目）



氏名　　西浦　健蔵

氏名ふりがな　にしうら　けんぞう

都道府県士会　福岡県

年齢　　56

勤務先名称　　甘木中央病院

立候補の趣旨

この度、日本理学療法士協会の理事に立候補いたしました。ここにその趣意を申し述べます。
私はこれまで２０年以上にわたり福岡県理学療法士会の役員を務め、士会長１１年としての経験を通じて、地域現場に根ざした活動と広域連携の重要性を深く認識してまいりました。
現場の課題や地域のニーズを最もダイレクトに把握している「都道府県士会長」が協会の意思決定（理事会）に参画することは極めて重要です。国や中央の方針を地域に展開するだけでなく、現場・地域の生の声を中央の施策に迅速かつ的確に反映させることで、協会と都道府県士会の緊密で実効性の高い推進体制を構築いたします。
特に九州ブロックにおける士会長としての経験から、ブロック単位での強力な連携こそが、各地域の課題解決や成功事例の全国展開に向けた大きな推進力になると確信しております。全国の理学療法士会と強固に連携し、共通の目標に向けて一丸となる体制づくりに尽力してまいります。
さらに、理学療法士のさらなる「処遇改善・労働環境の改善」も喫緊の課題です。専門性や社会的貢献に見合った待遇の実現に向け、給与水準向上や福利厚生充実をはじめとする具体的な施策・提言を推進し、理学療法士の職業的地位向上を目指します。
現場・ブロック・中央をつなぎ、理学療法士全体の発展と未来を切拓いてまいる所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

（福岡県理学療法士会）
２００５　筑後１地区部長　２００７　筑後支部長　２００９　支部担当理事
２０１３　総務局長　２０１５　６月　会長（現在に至る）



氏名　　野崎　展史

氏名ふりがな　のざき　ひろふみ

都道府県士会　東京都

年齢　　39

勤務先名称　　（公社）日本理学療法士協会

立候補の趣旨

　前回の役員選挙に続き再度立候補を決意しました野崎展史と申します。皆様にご理解いただき当選が叶えば、２度にわたる厚生労働省での勤務経験や協会・士会での活動経験等を活かし、理学療法士であることを誇りに思えるような魅力ある組織づくりに努めてまいります。また諸先輩方が築いてこられた協会の歩みや事業の連続性を踏まえつつ、変化も取り入れながら、次の未来に希望のバトンを繋げられるように、協会運営に取り組んでいく所存です。主たる公約は以下の３つとなります。また理事としての取組状況については別紙にまとめました。併せてご覧いただけたら幸いです。

１．魅力ある組織づくり

　協会のルール・運用をできる限りシンプルにわかりやいものにしていきます。また士会や連盟、学会、会員の皆様との意思疎通の強化や現場からの提案が形となるような提案型の事業枠の検討、能力とやる気を兼ね備えた若手人材の登用、シニア世代の有効活用等、魅力ある組織づくりを推進します。

２．報酬改定・法改正への責任ある対応と産業保健分野の職域の開拓

　疾患別リハビリテーションの包括化や訪問看護ステーションからの訪問規制等、現場の混乱を招く極端な政策転換を防ぎます。また産業保健分野での活躍の場をさらに広げて参ります。必要な人に必要なタイミングで、必要な量の理学療法を届けられるように、法改正への対応も含め、シンクタンク機能を強化し、執行部のロビー活動を支えます。

３．公益活動の強化

　士会での公益事業の経験等を活かし、戦略的に公益事業を展開し、理学療法士が地域の身近な存在として、また将来なりたい職業として選ばれるよう取り組みます。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

２０１４年：日本理学療法士協会受託厚生労働省老人保健健康増進等事業部員
２０１７年～：東京都理学療法士協会　エスカレーターマナーアップ推進委員会部員
２０１９年：日本理学療法士協会　協会・学会連携機能強化小委員会委員
２０２３年～：日本理学療法士協会　理事、Ｕ３０Ｕ４０ネットワーク構築検討部会長
２０２６年～：法改正検討特別委員会委員、組織強化対策推進部会部員　他



氏名　　白石　浩

氏名ふりがな　しらいし　ひろし

都道府県士会　東京都

年齢　　64

勤務先名称　　（公社）日本理学療法士協会

立候補の趣旨

「理学療法士が誇りを持って仕事ができる環境をつくりたい」――これが、私が理事選挙に立候補する最大の理由です。

　私はこれまで、臨床、教育、職能活動に携わるなかで、理学療法士という仕事の専門性や社会的役割、そして大きな可能性を実感してきました。一方で、処遇や社会的認知、職域の拡大など、理学療法士がその専門性に見合った評価を受け、誇りを持って働き続けるためには、まだ多くの課題があります。理学療法士を目指してよかった、そして、この仕事を続けてきてよかったと誰もが思える環境をつくることが、私の目指すところです。

　これまで私は、理学療法士教育の質の向上に向けた指定規則改正への対応や、養成教育の４年制大学化の推進に携わってきました。教育の充実は、理学療法士の専門性と社会的信頼を高め、将来にわたる職業の価値を築くための重要な基盤です。また、組織強化にも取り組み、都道府県理学療法士会との連携を通じて、会員の入会促進や定着に向けた取り組みを進めてきました。協会が一丸となって職能を守り、発展させていくためには、会員一人ひとりが協会の存在意義を実感できる組織づくりが必要です。

　今後も、教育の質の向上、職域の拡大、社会的評価の向上、そして組織基盤の強化に取り組み、理学療法士の将来を切り拓いていきたいと考えています。

　理学療法士一人ひとりが自らの仕事に誇りと希望を持ち、安心して働き、成長し続けられる。そのような環境を実現するため、これまで培ってきた経験と実績を生かし、理事としての責任と覚悟を持って、全力で取り組んで参ります。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

≪公益社団法人日本理学療法士協会≫　　平成２２年～２５年　代議員
平成２５年～２７年、平成２９年～令和１年　理事
令和１年～３年　　常務理事
令和３～７年　　教育推進課担当　常務理事
令和７年～　　専務理事
≪公益社団法人福岡県理学療法士会≫
平成１９年～２５年　理事、学術局長　　平成２５年～２７年　監事



氏名　長谷川　大悟

氏名ふりがな　はせがわ　だいご

都道府県士会　茨城県

年齢　43

勤務先名称　特別養護老人ホーム　サンフラワーひたちなか　／　筑波大学

立候補の趣旨

２期の在任中は「改善一歩」を信念に未着手の領域にも目を向け、多岐にわたる活動を展開させていただきました。とくに前回掲げた広報戦略を具体的な行動に移し、次期は広報で広げた社会との接点を理学療法士の活躍と制度上の評価に確実につなげていく必要があります。広報では公式インスタグラムの開設を進め、本会の各ＳＮＳフォロワー数は数千～数万人へと成長を続けています。また、新たなデジタル広告の活用や新聞、ドラマ、映画、出版社等との連携を通じ、接点の少なかった層への情報到達範囲の拡大に努めさせていただきました。士会広報担当者同士の交流と専門家の助言を得るプラットフォームも構築しています。今後は媒体ごとの効果を検証し、協会や各士会の工夫を共有する全国的な広報戦略を進めさせてください。報酬改定では協会内外の協議に参画し、障害福祉サービス等報酬や訪問リハビリテーション関連を担い、現場の実践と課題を集め、政策要望に向けた議論を重ねてきました。災害対応では支援経験を基に、部会長として緊急時対応の見直しと規程整備に着手しました。発災時の判断と役割を明確にし、協会と士会が速やかに動ける体制を次の任期中に整えます。理学療法士の専門性を社会に伝え、理解と信頼を広げ、現場の実践を制度の評価につなげる。この一連の取り組みを次の任期でさらに加速させ、従来の方法を検証し、必要な改善を重ねます。変革期にある今、皆様と課題を共有し、次の一歩を進めるため、３期目も協会運営を担わせていただければ幸いです。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

２０２０～２０２３年　日本理学療法士協会　代議員
２０２３～２０２５年　日本理学療法士協会　理事
２０２５～　　現在　日本理学療法士協会　常務理事（広報担当業務執行理事）
災害関連規程検討部会部会長、代議員ネットワーク検討部会部会長、重点諮問・ＥＰＯＣ検討委員会委員長、法改正検討特別委員会委員、報酬改定対策強化推進部会委員、理学療法ハンドブック作成部会委員、士会支援対策部会委員、全国リハビリテーション医療関連団体協議会委員、リハビリテーション専門職団体協議会訪問リハビリテーション振興委員会副委員長、日本理学療法学術大会広報部長、関東甲信越ブロック理学療法学会広報局長（茨城県理学療法士会：常任理事、普及啓発局長、調査情報部長、災害対策委員長ほか）



氏名　江草　典政

氏名ふりがな　えぐさ　のりまさ

都道府県士会　島根県

年齢　43

勤務先名称　島根大学医学部附属病院

立候補の趣旨

この度の役員候補者選挙に立候補いたしました江草典政と申します。これまで島根県理学療法士会で活動し、２０２１年度からは副会長として組織再編と学術局の運営を担ってまいりました。在任中は、研究支援制度、抄録作成支援、学会発表演題のフォローアップ体制などの新しい事業を手がけてまいりました。所属する大学病院では２０１３年より療法士長として、雇用環境の改善と組織の拡大に取り組むとともに、教育制度の設計や多職種を含めた人材育成に携わってまいりました。近年は療法士レジデント制度を開始し、卒後教育の発展に向けた実践を重ねています。また協会の各種委員を通じて、多くの会員の課題意識に触れる機会をいただきました。

２０２４年に本会理事に着任してからは、一般理事の職務に加え、生涯学習制度の見直しと組織強化に向けた部会運営を担当してまいりました。本会を取り巻く環境が大きく変わる今だからこそ、対象者に確実に理学療法の価値を届けるためには、会員一人ひとりが自ら学び、成長し続けられる環境づくりが欠かせないと考えています。「会員にとって本当に役立つ制度とは何か」を問い続け、生涯学習制度の設計やマネジャーを支援する仕組みを皆さんとともに形にしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

［士会関係］島根県理学療法士会
２０２１～２０２５年度　副会長・学術局長・学会審議委員長
［協会関係］
２０１９～２０２１年度　新人理学療法士職員研修ガイドライン作成委員会　委員
２０２１年度～現在　協会雑誌編集部会　部員
２０２３～２０２４年度　Ｕ３０－４０ネットワーク部会　部員
２０２３年度～現在　第６０回日本理学療法学術研修大会準備委員会　企画局長
２０２４年度～現在　理事
２０２６年度～現在　生涯学習制度検討部会（認定理学療法士制度見直し）部会長
２０２６年度～現在　組織強化対策検討部会　部会長



氏名　古木名　寿登

氏名ふりがな　こぎな　ひさと

都道府県士会　青森県

年齢　58

勤務先名称　五所川原リハビリ倶楽部

立候補の趣旨

令和４年まで青森県理学療法士会会長として１０年、東北ブロック協議会会長として４年、日本理学療法士協会と連携しながら人材育成や職域拡大に努めてきました。この間に感じたこととして、基本的な治療ができていない理学療法士が多くなってきていること、若い理学療法士に自信をもって自分の技術を見せて教えることができる理学療法士が少なくなっていること、あまり勉強をしない中堅・管理職が多くなってきていることなどが挙げられます。生涯学習は若い理学療法士に偏りがちで、中堅・管理職にとっては興味の対象外になっている印象があります。さらに定年退職を迎える理学療法士も徐々に増えてきており、退職後のセカンドキャリアについても退職前から準備できるような施策も必要ではないかと考えています。
現在、理学療法士及び作業療法士法の改正が検討されていますが、疾患別リハビリテーション料が開始されてから、理学療法士・作業療法士の区別がつかないような治療場面に遭遇することが多くなっており、ここで改めて理学療法士の専門性をはっきりさせる必要があると考えています
以上、若手から中堅、管理職、退職後までバランスの取れた施策ができること、理学療法士の専門性（できること、してはいけないこと）をより明確にすることを目指して、今回の役員候補者選挙に立候補させていただきます。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

平成２１年～　（一社）青森県理学療法士会　理事　職能局長
平成２４年～　（一社）青森県理学療法士会　副会長
平成２５年～令和４年　（一社）青森県理学療法士会　会長
令和元年～令和４年　東北ブロック協議会会長
令和４年～　（一社）青森県理学療法士会　相談役
令和４年～　東北ブロック協議会　監事



氏名　森沢　知之

氏名ふりがな　もりさわ　ともゆき

都道府県士会　兵庫県

年齢　51

勤務先名称　神戸リハビリテーション病院

立候補の趣旨

私は、急性期・回復期・生活期の臨床に加え、大学での教育・研究、全国規模のレジストリ研究に取り組んできました。その経験から回復期リハビリテーションの重要性を確信し、大学教員の立場を離れて臨床現場に戻りました。しかし、個々の医療機関の努力だけでは解決が難しい制度上の課題に直面し、臨床現場の声を国の政策に反映する必要性を強く認識しました。
■　これまでの主な実績：現場と地域を変えた実践力
１．回復期リハの現場復帰を経て、地域まで切れ目のない支援体制の重要性を実証
２．マルチモビディティ（多疾患併存）・内部障害等の人材育成を兵庫県士会で推進
３．地域医療提供体制の整備に貢献し、神戸市をはじめ県内の実施施設拡大に寄与

今後は現場の知見を国の政策と社会に還元できる下記の取り組みが重要と考えます。
１．科学的根拠に基づく診療報酬の適正評価と制度改善
２．多疾患併存時代に対応する卒後教育・人材育成の推進
３．専門性に誇りを持てる環境整備と社会的価値の向上

臨床力を高め、人を育て、現場の知見を制度と社会に還元する。急性期から回復期、生活期、地域まで切れ目のない理学療法支援体制を築くため、臨床・教育・研究・組織運営の経験を生かし、全国の理学療法士の声を協会の政策や職能活動に反映してまいります。理学療法士が専門性に誇りを持ち、その力を発揮できる環境を整え、専門性と社会的価値が正当に評価され、誰もが必要な理学療法を継続して受けられる社会の実現を目指し、理事に立候補いたします。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

平成２６年度～令和３年度：日本心血管理学療法学会　運営幹事
令和３年度～：日本循環器理学療法学会　理事
令和７年度～：兵庫県理学療法士会　理事
令和８年度～：日本理学療法士協会　代議員



氏名　内山　靖

氏名ふりがな　うちやま　やすし

都道府県士会　愛知県

年齢　62

勤務先名称　名古屋大学大学院医学系研究科

立候補の趣旨

これまで２６年間の協会理事としての経験に加え、世界理学療法連盟（ＷＰＴ）理事、専門委員等を務めた関係省庁や学会を含めたネットワークを最大限に活かし、会員の皆様が未来を見据えた多様な理学療法士観をもって、安心して働くことができる組織作りを推進します。

次の２年間で特に推進する活動（公約）
１）２０４０年問題を見据えて、地域社会で理学療法士がワンストップで活躍するために、協会のビジョン・ミッション・バリューを明確に提示し、代議員・都道府県理学療法士会の皆様と連携しながら、継続的な事業・財務計画を立案・実行します。

２）都道府県理学療法士会、学会連合、理学療法士連盟を含む関係団体との協議会を設置し相互に連携して、特に協会の会員組織と会費について集中的な議論をおこないます。

３）職能的なエビデンスの構築を促進するための機関を新設し、臨床実践データの集積、ＤＸ／ＩＣＴの推進とともに、理学療法のブランディングとその質を高め、外部資金を獲得するための活動と次世代を担う人材育成に取り組みます。

４）代議員・理事の多様な人材を活用するために関心分野等を尊重し、理事会での開かれた協議の場を設け、業務執行理事への立候補の機会と一般理事の業務監督権を明らかにする仕組みを進めます。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

協会理事（２００１年から現在）
第４１回（２００６年）・第５０回（２０１５年）日本理学療法学術大会　大会長
日本理学療法教育学会理事（２０２６年から）



氏名　高橋　哲也

氏名ふりがな　たかはし　てつや

都道府県士会　東京都

年齢　58

勤務先名称　順天堂大学

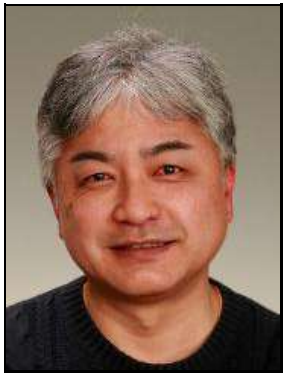
立候補の趣旨

これまでの経験と責任を胸に、改革の先頭に立ち、最後までやり遂げたい。その強い決意をもって、再び理事に立候補いたします

１　都道府県士会・学会・連盟との連携強化
・協会、都道府県士会、学会、連盟の相互支援や連携の強化に取り組みます
・組織代表の国政当選を目指し、全国の理学療法士の声を政策に反映させます
２　診療報酬・介護報酬対策のさらなる強化
・理学療法士の専門性と成果が正当に評価される報酬体系を目指します
・エビデンスに基づく政策提言を強化、処遇改善、雇用の安定、職域拡大を目指します
３　理学療法士法の改正を実現する
・時代に即した内容へ改正することはもちろん、予防、健康増進、公衆衛生、社会参加支援を理学療法士の役割として明確に位置づけます
４　会員を増やし、組織力を高める
・新卒者の入会促進と休会・退会の抑制に取り組みます。
・会員や士会の負担軽減を進め、「入ってよかった」と実感できる協会を目指します
５　開かれた理事会と透明性の高い協会運営
・事業の選択と集中、財務の透明化、意思決定過程の見える化を進めます
・すべての理事が自由闊達に議論し、ワンチームで改革を推進する理事会を実現します

役職歴（協会・士会・学会連合等）

２００１年～２００６年　群馬県理学療法士会　会長
２００３年～２０１２年　日本理学療法士学会　国際部部長
２０１５年～現在　日本理学療法士協会　理事
（副会長　２０２５年度ー２０２６年度）
２０２３年～現在　診療報酬改定対策強化推進部会　部会長
２０２３年～現在　公衆衛生等理学療法業務構築・検討部会　部会長
２０２５年～現在　ＤＸ及びＡＩ推進啓発推進部会



氏名　細井　俊希

氏名ふりがな　ほそい　としき

都道府県士会　広島県

年齢　58

勤務先名称

立候補の趣旨

私が日本理学療法士協会の理事になったら、やりたいことは２つあります。
ひとつは「地域社会に貢献できる理学療法士の育成」、もうひとつは「職域拡大」です。
私は現在、広島県の特別支援学校に週１回、尾道市の放課後児童クラブに週１回関わりながら、地域住民の１人として地区社協の理事を務め、子育てボランティアや学校への出前授業などプロボノとして活動しています。また、認定スクールトレーナーとして、県内の理学療法士とともに部会を作り活動しようと計画を立てています。
理学療法士は運動の専門家であるにもかかわらず、学校の現場に入っている方はまだまだ少ないと感じます。これからはこどもまんなか社会、こどもたちの運動発達をサポートできる理学療法士を育成することが不可欠です。まずは国や自治体との連携が重要です。協会は国と、各都道府県士会は都道府県や市区町村の教育委員会などと交渉し、自治体の事業に理学療法士を活用してもらえるようもっと働きかけるべきです。介護予防事業での経験と実績を活かせば難しいことではないと思います。並行して、協会としては、推進リーダー制度のようなかたちで人材育成を実施し、人材をプールし、適材適所にマッチングして派遣するシステムを構築できると良いと思います。各分野への自治体や他団体からの派遣要請があった場合に、協会の研修制度で時間とお金をかけてしっかり勉強した理学療法士を派遣することで、理学療法士の社会的な信頼度も上がると思いますし、さらなる職域拡大につながると思います。「協会に入会するメリットがない」とよく言われますが、協会に入会すれば地域社会への貢献ができ、経験を積むことができ、報酬も得られるようになれば、協会への入会者も増えるのではないかと思います。
「がんばった人が報われる社会」「自己実現できる社会」にしたいと思っていますので、皆さまのお力添えのほど、ぜひよろしくお願いいたします。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

士会：２０１１年から２０２０年まで　埼玉県理学療法士会　教育局長および副会長
　　２０２１年から２０２３年まで　広島県理学療法士会　理事
協会：２０２６年まで　日本理学療法士協会　代議員
学会：日本予防理学療法学会　運営幹事・理事



氏名　永野　忍

氏名ふりがな　ながの　しのぶ

都道府県士会　福岡県

年齢　50

勤務先名称　専門学校福岡リハビリテーション大学校

立候補の趣旨

私は、協会が国民の健康と幸福を支える団体へとより発展し、その意義を会員が実感できる組織を目指して、再び役員に立候補いたします。前回の立候補の際に掲げた「組織運営強化」を軸に、２０２５年６月の理事就任以来、事業計画や実施状況、予算執行の妥当性を会員の目線で確認し、意思決定の透明性と説明責任を求め、質疑、意見、要望を重ねてまいりました。また、ガバナンスとコンプライアンス検討・構築作業部会、法改正検討特別委員会に参画し、組織運営の改善と社会の変化を踏まえた身分法の見直しに向け、検討を進めております。次の任期では、これらの検討に現場の課題や会員の声を届けるとともに、次世代を見据えた組織の在り方を考えてまいります。働く場や価値観の多様化を踏まえ、既存の組織や事業の維持・拡大にとどまらず、将来、誰のために、どのような役割を果たすべきかを、次世代を担う会員とともに検討する機会づくりに努めます。会員が自ら関わりたいと思える、信頼と参加に支えられる協会運営に、誠実に取り組む所存です。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

２０１１年度　日本理学療法士協会　代議員（～２０２５年６月）
２０１３年度　福岡県理学療法士会　北九州支部総務・財務担当部長
２０１５年度　福岡県理学療法士会　福岡県女性理学療法士の課題を考える委員会委員長
２０１７年度　福岡県理学療法士会　理事（～現在）
２０２１年度　日本理学療法教育学会　評議員（～現在）
　　日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法研究会　評議員
２０２３年度　福岡県理学療法士会　理事（北九州ブロック総務・財務担当）（～現在）
２０２４年度　「理学療法教育」編集委員
　　第１３回日本理学療法教育学会学術大会　大会長
２０２５年度　日本理学療法士協会　理事（～現在）
　　日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会　評議員（～現在）
２０２６年度　ガバナンスとコンプライアンス検討・構築作業部会　部員
　　法改正検討特別委員会　委員（～現在）



氏名　　高見　由美

氏名ふりがな　たかみ　ゆみ

都道府県士会　島根県

年齢　　48

勤務先名称　　えだクリニック整形外科リハビリテーション科

立候補の趣旨

この度、理事役員候補者選挙に立候補しました。高見由美と申します。
社会環境が大きく変わる中、理学療法士が地域で専門性を発揮し、正当に評価される基盤づくりが大切です。私は小児領域の臨床に携わるとともに、島根県理学療法士会での職能事業や、２０２３年の第２０回島根県理学療法士学会長として「共に育む」をテーマに、実践を支える基盤づくりに尽力しました。また２０２４年より島根県理学療法士連盟会長として、現場の声や地方の課題に耳を傾け、職域拡大と地位向上に取り組んでまいりました。
超高齢化や生活様式の変化が進む今、私たちの活躍の場は医療・介護施設だけにとどまりません。地域包括支援や働く世代を支える産業領域、女性の生涯に寄り添うウィメンズヘルスなど、暮らしや仕事、子育ての場へと広がっています。一方で、処遇改善やキャリア支援、地方と都市部の課題の違いなど、向き合うべきテーマも山積しています。協会が持続的に成長し、全国の会員が希望を持って働き続けるには、現場の実情に寄り添った着実な組織運営が欠かせません。私自身も仕事と育児の両立に向き合ってきました。その経験と、臨床や組織運営、地域・行政等との連携で培った力を生かし、理事として次の４つの課題に取り組みます。
１．社会的地位の向上と処遇改善に向けた取り組みの推進
２．地域、産業領域、ウィメンズヘルス等における職域の開拓
３．都道府県士会との連携を深め、地方の課題に即した会員支援の充実
４．多様なライフステージに応じたキャリア支援と働きやすい環境づくり
一人ひとりの声を大切に、現場と協会をつなぐ架け橋となり、理学療法士の未来を明るく育めるよう努めます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

２００３年～２００６年　島根県理学療法士会　教育部
２０１４年～２０２１年　同　福祉部　／　２０２１年～現在　同　理事（職能局担当）
２０２３年　第２０回島根県理学療法士学会　学会長



氏名　　伊藤　智典

氏名ふりがな　いとう　とものり

都道府県士会　東京都

年齢　　49

勤務先名称　　（公社）日本理学療法士協会

立候補の趣旨

理学療法士が日本に誕生して６０年。私たちは歴史的転換点に差し掛かりました。厚生労働省にリハビリテーション統括調整室の新設、処遇改善、各方面での理学療法士の活躍拡大、身分法改正に向けた検討、ＷＰＣ２０２５東京の歴史的開催、これらは、全国の都道府県理学療法士会の協力、日本理学療法学会連合によるエビデンス創出、会員の皆さんの献身的なご尽力の賜物であり、感謝を申し上げます。
私は、四国のへき地のリハビリテーションの圧倒的な不足、格差を目の当たりにし、地域の人々を支えたいという気持ちで理学療法士を志しました。現在も、予防と地域領域の専門理学療法士として臨床・地域現場の課題に触れ、一会員として研鑽を続けています。さらに協会事務局において１５年以上、調査、広報、秘書、総務、教育学術、国際、政策と法人実務の全般を現場で担当してまいりました。
「現場・会員目線」と「実務・運営の知見」、両輪とし、政策的な潮流を会員一人ひとりの「確実な処遇・待遇改善」と、「責任と誇りある社会的地位」へつなげるため、次の３点を邁進いたします。
１．　現場と士会を支える強固な組織基盤の確立
２．　内外に示すことが出来る透明で公正なガバナンス
３．　職域拡大と政策提言の実装
現場の想いと、協会の屋台骨を確実に繋ぎ、将来において持続可能な会員の未来を拓く実務者として責任を果たします。ご信任を賜りますようお願い申し上げます。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

１９９８年　愛媛県理学療法士会教育部にて活動を開始。
２０１５年からＪＡＮＮＥＴ（障害分野ＮＧＯ連絡会）、２０２３年より本会理事として「ＯＢ・ＯＧネットワーク検討部会」、「ガバナンスとコンプライアンス検討構築作業部会」、「組織強化対策部会」、「ＡＷＰ地区執行委員会」に携わりました。



氏名　岩田　健太郎

氏名ふりがな　いわた　けんたろう

都道府県士会　兵庫県

年齢　48

勤務先名称　神戸市立医療センター中央市民病院

立候補の趣旨

会員に負担を求める前に、協会自身が改革を前に進める！
急激な医療の進歩や人口構造の変化に対応し、若い世代が希望を持って成長し、
すべての世代が安心して働ける環境を目指します。
【１】会員の負担軽減と人材育成
・兵庫県士会では、皆で協力し、サービスを向上させながら会費減額を実現しました。この経験を生かし、会員サービスの充実と負担軽減を目指します。
・学び続けやすい環境を整えるため、登録・認定・専門理学療法士の更新負担を見直し、会費以外の追加費用をかけずに更新できる仕組みを目指します。
【２】データに基づく政策実行力強化と処遇改善
・現場の声と学術的根拠を政策につなぐ専門体制、および行政・関係団体との連携を強化し、政策の実現を目指します。
・理学療法の社会的・経済的価値をデータで示し、診療・介護報酬改善に貢献します。
【３】地域の声を政策に反映する仕組みづくり
・都市部の需要増大や人口減少地域の雇用維持など、地域の課題を都道府県士会と共有し、協会の政策への反映に努めます。
・神戸で培った行政・医療機関・専門職団体との連携経験を生かし、急性期から回復期・生活期まで切れ目のないリハビリテーションの実現に貢献します。
皆様と力を合わせ、現場の声が届き、会員がメリットを実感できる協会を目指します。
組織率の低下に歯止めをかけ、理学療法士の職域拡大と社会的価値の向上に尽力します。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

２０１５年～２０２１年　兵庫県理学療法士会　卒後教育部　部長
２０２１年～２０２４年　兵庫県理学療法士会　理事
２０２３年～現在　日本理学療法管理学会　理事
２０２３年～現在　診療報酬改定対策強化推進部会
２０２５年～現在　ＤＸ及びＡＩ推進啓発推進部会
２０２５年～現在　兵庫県理学療法士会　副会長



氏名　波多埜　克宜

氏名ふりがな　はたの　かつよし

都道府県士会　熊本県

年齢　49

勤務先名称　にしくまもと病院

立候補の趣旨

【専門性が正当に評価され、未来につながる職能団体へ】
この度、日本理学療法士協会理事へ立候補する波多埜克宜と申します。
私は熊本県理学療法士協会理事を５期、協会代議員を４期務め、
地域と全国の双方から職能団体の活動に携わってまいりました。
その経験から、制度を整えるだけでなく、会員が意義や成果を実感できる
仕組みづくりの重要性を感じています。その一例が生涯学習制度です。
制度の複雑さに加え、学びや資格取得のメリットが十分に明確ではなく、
培った専門性が職場や社会での評価につながりにくい現状があります。
学びの成果を可視化し、理学療法の質と専門性の社会的評価を高めることが
職能団体の重要な役割だと考えます。また、協会の組織率低下も
看過できない課題です。会員が所属する意義を実感し、協会活動が
自身の成長や将来につながることが、持続可能な組織基盤を築きます。
熊本県理学療法士連盟会長として政策や制度に関わった経験からも、
学術・職能活動の成果を社会制度や政策につなぐ重要性を実感しました。
協会と連盟がそれぞれの役割と独立性を尊重しながら協働し、
理学療法士の専門性が適切に評価される社会の実現を目指します。
県士会理事、代議員、臨床現場、連盟活動で培った経験を生かし、
理事就任後は会員の声を制度改善に反映し、その成果と会員メリットを
若手会員にも分かりやすく示す組織運営に取り組んでまいります。
「協会に所属してよかった」と思える具体的な成果を積み重ね、
次世代が誇りと希望を持てる未来を築くため、立候補いたします。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

２０２０～２０２６年度　日本理学療法士協会代議員（４期）
２０１８～２０２６年度　熊本県理学療法士協会理事（５期）
２０１９年度　第２３回熊本県理学療法士学会　学会長
２０２３年度　九州理学療法士学術大会２０２３ｉｎ熊本　事務局長



氏名　沖原　優子

氏名ふりがな　おきはら　ゆうこ

都道府県士会　埼玉県

年齢　45

勤務先名称　リハビリテーションクリエーターズ株式会社

立候補の趣旨

私は、２０年以上にわたり理学療法士として臨床現場に携わり、患者さんや地域の方々の声に向き合ってまいりました。日々の臨床を通じて、人々の生活や地域社会に大きく貢献できることを実感し、この職業に誇りを持っています。だからこそ、理学療法士の可能性をさらに広げ、社会に必要とされる場面にその専門性を届けていきたいと考えています。

また、地方議員として、医療・介護・福祉の課題を現場だけでなく、制度の視点から捉える経験を重ねています。現場で必要とされていることが、必ずしも制度や仕組みに反映されているとは限りません。現場の声を社会に届け、理学療法士が必要とされる場所で活躍できる仕組みや制度をつくることも、協会の重要な役割だと考えています。

約４割を女性が占め、３０代を中心とする会員構成を踏まえ、この２年間、育児経験を持つ理学療法士として、会員それぞれのライフステージやライフバランスを意識しながら理事としての役割を果たしてまいりました。また、ハイブリッド形式の理事会では基本的に対面で参加し、他の理事との直接的な対話を通じて相互理解を深め、連携を図ることを大切にしてきました。

臨床現場、子育て、地域活動、そして政治。これらの経験を併せ持つ私だからこそ届けられる視点があります。会員一人ひとりの声に耳を傾け、会員の活動を支えるとともに、理学療法士の専門性を社会に還元できる協会づくりに取り組んでまいります。

これまでの経験と１期２年間の活動を礎に、理学療法士の未来と協会のさらなる発展のため、引き続き力を尽くしてまいります。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

２０１７～２０２１年　福岡県理学療法士会　ワークライフバランス部部長
２０２０～２０２５年　日本理学療法士協会　代議員
２０２１～２０２４年　福岡県理学療法士会　理事
２０２５年～　日本理学療法士協会　理事　現在に至る



氏名　松井　一人

氏名ふりがな　まつい　かずひと

都道府県士会　福井県

年齢　56

勤務先名称　㈱ほっとリハビリシステムズ

立候補の趣旨

理学療法士の未来を切り拓き、成果を会員と社会に還元する協会へ。
臨床・行政・経営の経験と協会理事としての責任を踏まえ、改革に取り組みます。
１．実行力のある組織運営
・責任と権限、事業ごとの担当・期限・成果指標の明確化
・事務局機能・人材育成の強化、部門別管理会計と予算・成果検証の徹底
２．政策提案と職域拡大
・訪問リハビリテーションステーションの制度化、効果的な介護予防の確立
・介護分野の自立支援・重度化防止、終末期・内部障害・障害児支援の充実
・産業保健、公的保険外領域の事業化と必要な規制緩和の提案
３．科学的根拠の構築と社会への発信
・臨床的・経済的効果の検証と政策・制度への反映、アジアでの連携推進
会員・都道府県士会とともに、現場の声を政策へ、議論を実行へ。
誇りを持って働き、次世代が希望を持てる未来を、具体的な成果で築きます。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

１９９６年～２００４年　福井県理学療法士会　理事
２００７年～２０１１年　日本理学療法士協会　職能局　業務推進部長
２０１１年～　日本理学療法士協会　理事
財団担当　特任理事
訪問リハビリステーション特別委員会　委員長
公的保険外領域検討委員会　委員長
地域保活ケアシステム推進事業対外活動支援委員
地域包括対策本部　委員
研修システム等検討委員
令和６年度報酬改定対策強化推進部会
管理者研修制度検討委員会　委員長
令和９年度報酬改定対策強化推進部会（介護報酬担当）



氏名　大西　秀明

氏名ふりがな　おおにし　ひであき

都道府県士会　新潟県

年齢　58

勤務先名称　新潟医療福祉大学

立候補の趣旨

理学療法士は今、大きな転機を迎えています。６０年ぶりの法改正、新たな地域医療構想、予防や健康づくりへの期待の高まりなど、活躍の場は広がっています。私は、理学療法士が治療から予防まで国民の健康を支える専門職として社会から信頼され、若い世代が誇りと希望を持って選ぶ職業であり続ける未来を目指しています。
２年前、私は質保証、若手の育成、学術基盤の強化、法改正を掲げて立候補し、この間、法改正と４年制大学化の推進に携わってまいりました。その中で、こうした未来を実現するには、協会がその推進力として十分に機能することが不可欠だと強く感じています。新卒合格者の入会率はこの１０年で８割から５割台へと低下し、予算は２年続けて赤字となる一方、事業の数は増え続けています。限られた予算と力を重点課題に集中する改革が急務です。そのために、以下の重点事項に取り組みます。

１．法改正と質保証：理学療法士法の改正と養成教育の４年制大学化を推進し、生涯学習の充実とあわせて理学療法の質を高めます。
２．若手が希望を持てる職能へ：若手が活躍できる環境を整え、新卒者が「入りたい」と思える協会を、都道府県士会と共につくります。
３．学術と職能の連携：日本理学療法学会連合との役割分担を明確にするとともに、連携を強化し、エビデンスに基づく理学療法を社会に発信します。
４．選択と集中による組織づくり：事業に優先順位をつけて見直し、重点課題に力を注ぐとともに、開かれた議論で意思決定を行う協会運営を目指します。

これまでの理事や事務局職員の皆様が尽力されてきたことに、心から敬意と感謝を申し上げます。理学療法の明るい未来を共に築き上げるため、全力を尽くしたいと存じますので、皆様の温かいご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

２０１３年度～：日本基礎理学療法学会理事（２０１９年度～副理事長）
２０２５年度～：日本理学療法士協会理事



氏名　加藤　浩子

氏名ふりがな　かとう　ひろこ

都道府県士会　栃木県

年齢　47

勤務先名称　さつきホームクリニック

立候補の趣旨

私は、理学療法士は、その専門性を生かし、国民が生涯を通じて健康に暮らすことに貢献できる職種であると考えております。
理学療法士の社会的価値を高めるためには、学術活動を通じて専門性を深め、科学的根拠に基づく質の高い理学療法を実践し続けることが重要です。また、これまで医療・介護、特に介護予防の分野で培ってきた知識や経験を生かし、健康増進などより幅広い領域で社会に貢献していくことも必要です。
そのためには、日本理学療法士協会、日本理学療法学会連合、都道府県士会の連携が欠かせません。学術的な成果を実践に生かすとともに、協会が全国的な方向性や活動基盤を整え、各士会が地域の実情に応じて取り組みを進められることが重要です。
今後、長年の学術局での経験と県士会運営で得た知識を生かし、若い世代を含む多様な会員が主体的に参画できる組織づくりを大切にしながら、各組織と会員の橋渡しを行い、理学療法士の社会的価値の向上に尽力してまいります。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

平成２３年～令和８年度　（一社）栃木県理学療法士会理事
平成２３年～平成２８年度　（一社）栃木県理学療法士会学会部部長
平成２８年～令和４年度　（一社）栃木県理学療法士会ワークライフバランス部部員
平成２９年～令和６年度　（一社）栃木県理学療法士会学術局長
平成３０年度　第３７回関東甲信越ブロック理学療法士学会準備委員長
令和２年～令和４年度　（公社）日本理学療法士協会登録理学療法士制度委員会委員
令和５年度～現在　（一社）栃木県理学療法士会副会長
令和５年度～現在　（公社）日本理学療法士協会代議員



氏名　板倉　尚子

氏名ふりがな　いたくら　ひさこ

都道府県士会　東京都

年齢　63

勤務先名称　日本女子体育大学健康管理センター

立候補の趣旨

子どもの健康課題が多様化・複雑化するなか、学校保健領域で理学療法士が専門性を発揮することは、生涯を通じた健康づくりや予防教育につながります。今期、私は保健領域推進事業を担当し、都道府県士会と連携した学校保健活動を進めてきました。また、認定スクールトレーナーの広がりを支援するとともに、幼保小の架け橋プログラムにも着目し、幼児期の健康課題について現場調査と整理を始めています。子どもや保護者、保育・教育関係者と協働し、現場の課題を捉えた実践につなげます。また、地域との連携を深めます。今後は、成育基本法の政策体系との整合性を図り、妊産婦・親支援から子どもの発達、学校保健、医療的ケア児への支援、保育・教育との連携まで、ライフコース全体を見据えた理学療法士の役割を明確にし、職域拡大と政策提言を進めます。産前・産後サポート事業ガイドライン等に理学療法士が実施者として明記されたことも踏まえ、母子保健と子どもの健康づくりを両輪として、活躍の場を広げます。こうした活動を社会に根づかせるには、制度面の裏付けも欠かせません。本会で検討が進む理学療法士・作業療法士法の改正について、医療の枠組みを大切にしながら、学校保健や母子保健の活動実態を踏まえた制度となるよう、関係団体や行政との連携・協議を進め、現場の活動実態が制度に反映されるよう取り組みます。
動物に対する理学療法については、獣医療関係者との意見交換を通じて関わる可能性や方向性が見えてきました。相互理解と連携を深め、新たな領域の開拓、体制整備、事業化に取り組みます。
これまでの経験を生かし、理事として協会全体の発展に貢献し、理学療法士の社会的認知度と価値を高め、多様な領域で専門性を発揮できる環境づくりを推進します。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

２０１４年度～２０２０年度　日本理学療法士協会代議員
２０１９年度～２０２０年度　日本理学療法士協会学校保健委員会委員
２０２１年度～現在　日本理学療法士協会理事（２０２３年度より常務理事）
２０１５年度～２０１８年度　東京都理学療法士協会スポーツ局次長
２０１９年度～現在　東京都理学療法士協会スポーツ局局長



氏名　西田　裕介

氏名ふりがな　にしだ　ゆうすけ

都道府県士会　千葉県

年齢　51

勤務先名称　国際医療福祉大学成田保健医療学部

立候補の趣旨

現在、理学療法士の養成教育は、大きな転換期を迎えています。国も「５０年に一度の医療職養成の大改革の時代」と位置づけ、法改正を含めたさまざまな検討が進められています。
私は今年度、厚生労働省の「医療関係職種の安定的な養成・確保に関する検討会」の委員として、養成校の定員充足率などの課題や、２０４０年を見据えた医療専門職の安定的な養成・確保についての議論に参画しています。こうした中、理学療法士の質の向上と安定的な養成を実現するためには、指定規則の適切な改正とともに、養成教育の質保証に向けた新たな仕組みづくりが不可欠です。私はこれまで、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、全国リハビリテーション学校協会の三団体による指定規則改正に向けた協議に、全国リハビリテーション学校協会の代表（教育担当理事／事務局長）として参画してきました。その中では、４年制大学化を含めた教育の質の向上についても議論を重ねてきました。さらに今後は、ＣＢＴ（客観的知識評価試験）やＯＳＣＥ（客観的臨床能力試験）による共用試験の導入・活用など、学生の知識・技術・態度を適切に評価し、理学療法士としての臨床実践能力を保証する教育体制の構築も重要な課題となります。これらの改革を実現するためには、職能団体である日本理学療法士協会と、全国のＰＴ・ＯＴ・ＳＴ養成校の９３％以上が加盟する全国リハビリテーション学校協会との連携強化が不可欠です。私は、これまでの経験と両団体の協議に参画してきた立場を生かし、職能と教育をつなぐ橋渡し役として、理学療法士の未来を切り拓くために全力で取り組みます。
会員の皆さまに実感していただける、具体的かつ目に見える成果を残すことをお約束します。皆さまのご支援を心よりお願い申し上げます。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

日本理学療法士協会における直近の活動では、２０２３ー２０２４年度の新入会促進検討部会、４年制大学化推進部会の部会員を務めました。千葉県理学療法士会では理事（２０１９ー２０２２年度）、第２７回千葉県理学療法士学会（２０２２年３月）において大会長を務めました。



氏名　森本　榮

氏名ふりがな　もりもと　さかえ

都道府県士会　東京都

年齢　71

勤務先名称　初台リハビリテーション病院

立候補の趣旨

私は平成２１年に協会理事に就任して以来、協会と士会の発展に向け、さまざまな課題解決に取り組んできました。
平成２５年には、市区町村における介護予防事業の推進に向けて「介護予防推進リーダー研修制度」を構築し、人材育成と事業普及の基盤づくりを進めました。また、士会機能強化推進担当として「士会支援金制度」を提案し、士会の事務機能強化を支援することで、介護予防事業の円滑な展開を後押ししました。各都道府県の管理者ネットワーク構築を支援し、組織基盤の強化にも取り組んできました。
私が重視しているのは、必要な投資を行いながらＰＤＣＡサイクルを円滑に回し、その成果を費用対効果として示すことです。現在はシステム担当理事として、協会運営を支えるシステムの価値向上と安全な運用体制の整備に取り組むとともに、将来を見据えた適切な投資の検討を進めています。また、７０社の賛助会員のうち３５社と個別面談を実施し、他産業との連携を模索しながら、「理学療法士」の認知向上と協会の発展に向けた取り組みを進めています。
今後も協会と士会の未来に向けて全力で取り組んでまいります。皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

２１年　２２年協会職能局長　協会理事
２３年　２４年協会事務局長　協会理事
２５年　２６年協会地域包括ケア推進対策本部長
２７年　２８年地域包括ケア対策本部長　協会常任理事
２９年　士会機能強化推進執行委員長兼介護予防推進執行委員会委員長　副会長
３０年　士会機能強化推進執行委員長、職能課職域事業係担当等、専務理事兼副会長
令和元年２年職能課職域事務係・診療報酬担当、組織体制検討委員会委員長、副会長
令和３年　業務執行理事　学会連合担当　　日本理学療法学会連合監事
令和７年　業務執行理事　システム担当・賛助会員担当　現在に至る



氏名　吉井　智晴

氏名ふりがな　よしい　ちはる

都道府県士会　東京都

年齢　61

勤務先名称　東京医療学院大学

立候補の趣旨

創立６０周年の節目を経て、本会は次の時代へと踏み出しています。しかし今、私が最も危機感を抱いているのは、このままでは組織が硬直化してしまうのではないかという点です。これまで執行部の一員として運営を担ってきた私自身、社会情勢や医療・福祉の現場が急速に変化する中で、従来の延長線上にある意思決定や同質的な視点のままでは、いずれ前例踏襲に陥り、真に求められる変革は起こせないと誰よりも強く痛感しています。
だからこそ今、これまでの歩みや積み上げてきた取り組みをしっかりと継承しつつ、多様な人材と新たな視点を積極的に取り入れ、しなやかで強い組織へと造り変えていく必要があります。一人の人間ができることには限りがあります。異なる経験や専門性、生活背景を持つ人々の知恵を掛け合わせてこそ、組織の硬直化は防げます。これまでの知見を次の世代へと橋渡しし、新たな体制を軌道に乗せる推進役として立候補いたしました。
私が重視してきた女性理事の登用（定員の約３０％＝７名）をはじめ、得意分野や年齢、地域など多様な人材を活かすため、業務執行理事への立候補の機会と一般理事の業務監督権を明確化する仕組みを整え、透明で開かれた運営を実現します。
さらに、２０４０年問題を見据えた本会の理念を代議員や都道府県士会の皆様と共有し、双方向の対話のもとで継続的な事業・財務計画を実行します。これまで他団体渉外や広報、Ｕ４０事業を担ってきた経験を活かし、都道府県士会、学会連合、連盟等の関連団体との連携強化や、理学療法のブランディング向上・外部資金獲得、そして次世代育成に力を注ぎます。あわせて事務局機能の強化やＤＸ・ＩＣＴ推進によって運営基盤を固め、会員の皆様が安心して働ける組織づくりを推進します。
すべての基準は「会員目線」です。「会員よし、国民よし、協会よし」の三方よしを胸に、理学療法の核を守りながら変化を恐れず挑戦を続け、次の１００年へと続く新たな組織を皆様と共に創り上げてまいります。ご支援をよろしくお願いいたします。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

２００９～２０１２年度、２０１５～２０１６年度　理事
２０１７～２０２０年度　常務理事（理学療法ハンドブック作成執行委員会　他）
２０２１～２０２６年度　副会長（６０周年広報・Ｕ４０　事業・他団体関係渉外担当）



氏名　谷口　千明

氏名ふりがな　たにぐち　ちあき

都道府県士会　愛媛県

年齢　64

勤務先名称

立候補の趣旨

私はこれまで理事を務めてきた中で、常務理事や専務理事として事務局の統括を担い、現在は日本理学療法学会連合の担当理事として連携・調整に尽力しております。長年の中枢での経験から、組織のさらなる発展を見据え、情報共有や意思決定のプロセスにおける風通しをさらに良くしていく余地があると感じています。さまざまな立場からの意見や多様な視点が十分に反映されるオープンな議論の場を整えることは、公益社団法人として会員の皆様の信頼を深めるうえで極めて重要です。
今求められるのは、開かれたガバナンスと、多様な意見が建設的に交わされる組織風土の深化です。私はこれまでも組織の健全性を発展的に守るため、真摯かつ率直な対話を重ねてまいりました。同時に、組織全体の力を最大化するため、地域医療・介護等を支える「都道府県理学療法士会」、政策実現を担う「日本理学療法士連盟」、学術・研究を牽引する「日本理学療法学会連合」と協会が、それぞれの強みを活かし有機的に連動する体制を構築しなければなりません。
これまでの実務経験と各組織とのネットワークを活かし、さらなる情報共有の円滑化と前向きな議論ができる透明性の高い理事会運営、ならびに強固な連携体制の実現に全力を尽くす覚悟です。会員一人ひとりの誇りと信頼に応える協会をつくるため、何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

・２００５年度～（８年間）　日本理学療法士協会　生涯学習部員・委員会委員
・２００６年度～（１３年間）　愛媛県理学療法士会　事務局長・副会長
・２０１６年度～　日本理学療法士連盟　女性部長（現・女性局長）、副会長を歴任（協会専務理事就任に伴い退任）
・２０１３年度～現在　日本理学療法士協会理事（常務理事、専務理事を歴任。生涯学習、士会・女性会員対策、会員制度、新型コロナ対策本部、組織強化、士会支援等を担当し、現在は学会連合を担当）



氏名　小川　克巳

氏名ふりがな　おがわ　かつみ

都道府県士会　熊本県

年齢　75

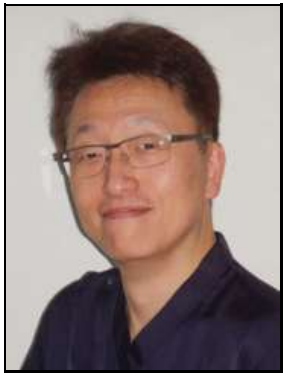
勤務先名称　自宅

立候補の趣旨

現在、私たちは大きな変革のただ中にあります。その象徴的な出来事のひとつは、社会背景の大きな変化に伴う役割や機能の広がりとは無関係に、６０年の長きに亘って制定当時そのままに置いてこられた「理学療法士及び作業療法士法」にようやく改正の機運が生まれたことであり、ふたつ目には、長い間の念願であった「リハビリテーション統括調整室」というリハビリテーション政策の包括的司令塔とも言える部署が、厚生労働省内に設置されたことです。これらは理学療法士の今後を左右する極めて大きな動きであり、私たちは、いまこそ明確なビジョンを共有するとともに、周到に練られた戦略・戦術のもとで、その具現化に向けて取り組まなければなりません。揺るぎなき信念の下、業界一丸となるべき時を、いま私たちは迎えているのです。
　ご承知の通り、理学療法は、もはや三次予防の領域のみに留まってはいません。一次予防から三次予防、そしてゼロ次予防までをも含めて、理学療法士の視点と技術が大いに役立つのです。私たちは人がそのひとらしく暮らしを営むことができるよう支援する職種です。私たちの理学療法にはそのためのｋｎｏｗ－ｈｏｗがふんだんに詰まっています。
　そうした視点からの資格法の改正、そして世界を俯瞰したリハビリテーション政策。理学療法は医療・介護・福祉のみならず、地域や人の暮らしの中に実装されてこそ、その真価を発揮するものだと考えています。
　「価値ある未来」を一歩でも実現に近づけるため、皆さんの様々な声に耳を傾けながら、理学療法政策の一番近くに身を置く理学療法士として、また、協会役員のひとりとして精一杯の努力を重ねる決意であることをご理解頂き、改めて応援頂けますと幸いです。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

平成４～１５年　熊本県理学療法士協会　会長
昭和６０年～平成１３年　日本理学療法士協会　代議員
平成１３年～平成２９年　日本理学療法士協会　理事　（平成１９年～２９年　副会長（事務局長、組織、公益法人化など主に組織基盤強化を担当）
令和元年～現在　日本理学療法士協会　理事



氏名　太田　晴之

氏名ふりがな　おおた　はるゆき

都道府県士会　岡山県

年齢　54

勤務先名称　岡山大学病院

立候補の趣旨

ＰＴになり翌年より岡山県理学療法士会で学術部員として、学術活動を中心に活動してきました。皆仲良く、何事も楽しんで行うことを心得にしております。これまで一貫し臨床と組織運営に向き合ってまいりました。岡山県理学療法士会の理事として卒後研修会担当し年間多くの研修会の企画・運営に携わりました。会員の皆様の研鑽の場を支えることの重要性を肌で感じ、組織の発展と学術振興に尽力してまいりました。今、私たち理学療法士を取り巻く環境は歴史的な転換点にあり、国の施策においても「攻めの予防医療」の中核としての役割が明記されるなど、社会からの期待はかつてないほど高まっています。この好機を真の「地位向上」と「処遇改善」へ結びつけるためには、協会自体のさらなる組織改革が不可欠です。具体的には、中央と都道府県士会、そして学会連合との風通しをより良くし、現場の声が迅速に政策や生涯学習制度へ反映される柔軟な連携体制の構築が必要です。また、若手からベテランまで多様な会員が過度な負担なく参画でき、学び続けられる持続可能な組織へと進化させることが私たちの目指す未来のビジョンです。
私たちが今日あるのは、道を開いてこられた諸先輩方の弛まぬ努力と深い献身のおかげです。その歴史と先輩方への深い敬意を忘れることなく、一方で、日々現場で柔軟な発想と熱意を持って挑戦する後輩たちから謙虚に学び続ける姿勢を大切にしています。
日本理学療法士会の未来のために尽力いたします。何卒、温かいご支援とご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

２０１３～現在　岡山県理学療法士会理事
（２０１３～２０２５年　岡山県理学療法士会卒後研修会担当）
２０２１年６月～２０２５年６月　岡山県理学療法士会　学術局長
２０２５年６月～現在　岡山県理学療法士会　副会長
２０２０年６月～現在　日本理学療法士協会代議委員
２０２５年８月～現在　中国ブロック理学療法士会評議員
２０２１年１０月～２０２５年６月　日本理学療法士会徒手理学療法研究会評議委員
２０２６年６月～現在　日本筋骨格系徒手理学療法研究会　監事



氏名　大関　直也

氏名ふりがな　おおせき　なおや

都道府県士会　茨城県

年齢　44

勤務先名称　東京医科大学茨城医療センター

立候補の趣旨

私は２０１７年から特定非営利活動法人　日本心臓リハビリテーション学会の評議員と編集委員を兼務し、関東甲信越支部の評議員を務めております。また、一般社団法人　日本フットケア・足病医学会では、リハビリテーション推進委員会と編集委員会の委員を務めております。日本心臓リハビリテーション学会は２０２２年診療報酬改定時の、回復期リハビリテーションを要する状態への病名追加に貢献しました。日本フットケア・足病医学会も同改定で、糖尿病足病変が疾患として追加されたことに貢献しました。茨城県理学療法士会では、オリジナル研修の講師を長らく務めております。協会政策活動においては、「現場の提言を協会運営に」を私の活動指針とし、以下に掲げる政策課題に取り組んでまいります。１．県士会や理学療法学会・研究会等の運営の円滑化：県士会や学会・研究会、学術集会等の運営に不自由さを感じる先生方が非常に多いと実感し、その不自由さを少しでも改善したいと考えております。円滑で壁のない現場運営の実現に向け取り組みます。２．理学療法士の存在意義の増進：私は２０１８年に、理学療法士が運動指導に関わる特定保健指導の成果に関する検討を行い、報告させていただきました。理学療法士が社会からさらに必要とされるためには、新たな職域への進出と価値の創造が必須であり、関連団体や協会と連携しそれを果たす所存でございます。また、地方都市における理学療法士の活躍の場を広げるためにも活動いたします。３．職能集団の飛躍：近年では協会組織率の低下や新卒理学療法士の早期離職が課題となっており、これらに対しては新たな政策を検討すべきであると考えます。理学療法士の存在意義に関わる不安を払拭していきたい所存です。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

２０１５年～１８年日本糖尿病理学療法学会学術集会実施部　２０１８年理学療法学会ガイドラインＳＲ班員　同年理学療法ハンドブック作成事業部員　同年第２回日本呼吸・心血管・糖尿病理学療法学会合同学術大会準備委員　同年～茨城県理学療法士会代議員　２０２０年～現在日本糖尿病理学療法学会下肢慢性創傷の理学療法研究・啓発事業部員　２０２３年第９回日本糖尿病理学療法学会学術大会準備委員



氏名　　田原　岳治

氏名ふりがな　たわら　たけはる

都道府県士会　広島県

年齢　　46

勤務先名称　　キッズさぽーとｙｕｉ

立候補の趣旨

広島県理学療法士会の理事として、職域の拡大と広報誌を担当しています。２０２４年と２０２５年は協会の代議員として総会で発言し、代議員ネットワーク支援部会では代議員同士が学び合い意見を交わす貴重な経験を得ました。

協会は会員数が多く事業も多岐にわたります。その分、理事の役割分担が会員から見えにくい面があるのではないかと感じています。

理事は、理事会の一員として、事業の進め方を決める場に加わります。あわせて、業務執行理事の職務が適切に行われているかを確かめる立場でもあると考えます。私は全国に名の知られた存在ではありません。それでも、すべての理事が負う善管注意義務と忠実義務を心にとめ、一人の理事として、議案や資料をていねいに読み、会員の目線で大切な点を確かめ、前向きに議論に加わります。そうして、業務執行理事の活動を支えます。

協会の事業が現場にどう届いているかに目を配り、協会全体にとって何がよいかを考えます。総会で説明を求められたときは、理事として誠実にお答えします。

私の強みは、県士会で会員とじかに接してきた現場感覚と、代議員として総会を見てきた視点です。この二つを、協会が全国で担う仕事を考えるときの判断材料として、理事会に持ち込みます。

理事同士が互いを尊重し協力し合える理事会であり続けられるよう、新しい風を吹き込みます。どうぞよろしくお願いいたします。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

２０２３～現在　　広島県理学療法士会　理事
２０２４～２０２５年　日本理学療法士協会　代議員
２０２５～２０２６年　日本理学療法士協会　代議員ネットワーク支援部会　部会員



氏名　　湯元　均

氏名ふりがな　ゆもと　ひとし

都道府県士会　北海道

年齢　　68

勤務先名称　　（公社）日本理学療法士協会

立候補の趣旨

士会役員および協会職員としての２６年、および、２０２１年度より業務執行理事として６年間仕事をさせて頂きました。今期は教育推進課担当理事として、国民にとってより分かりやすい資格制度の見直しや会員としての活動履歴を認証し、その活動を後押しできる会員活動のポイント制度導入を手掛けてきました。

当初制度変更は、全てを２０２９年度目途と考えていたが、会員周知も含めた諸事情のため登録理学療法士制度における学修内容の見直しや短縮制度の導入のみを２０２９年度開始で進めています。一方、認定理学療法士制度の大幅な見直しと専門理学療法士制度の学会連合との協同改定などは１０年目の節目である２０３２年度開始となりました。

どの団体においても、資格制度は該当領域における優れた知識と技能を有する者への称号付与であり国民に対する区別化であると考えます。もちろん、その先には資格保持者としての優位性があると考えますが、まずは受療者である国民に分かり易い制度であるためには専門分化があまりにも進み過ぎると国民は迷子になる可能性があります。

国民に寄り添う資格制度は大括りで分かり易く、より専門性を追求してエビデンスを構築し理学療法の質を高める資格制度はより細分化が必要であるかもしれません。このような峻別ある資格制度の変更が将来の理学療法を支える基盤となると信じています。

これらを実現するために今一度チャンスを頂き、せっかく縁があり入会いただいた理学療法士が一人でも多く会員でいつづけることの意義を感じて頂けるような組織体制と新たな視点での本会活動に一歩ずつではあっても近づけるよう精一杯尽力したい所存です。

是非ともよろしくお願いいたします。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

＜協会＞　生涯学習部員（１９９７－２００８）　代議員（１９９９－２０１２）
ＩＴ化推進特別委員会委員（２０１１－２０１２）
協会組織検討特別委員会委員（２０１１－２０１２）
専務理事（２０２１－２０２２）　広報企画担当常務理事（２０２１－２０２４）
教育推進課担当副会長（２０２５－２０２６）
＜士会＞北海道理学療法士会理事・事務局長・副会長（１９９５－２０１２）



氏名　玉木　彰

氏名ふりがな　たまき　あきら

都道府県士会　兵庫県

年齢　61

勤務先名称　兵庫医科大学リハビリテーション学部

立候補の趣旨

私は大学教員として多くの理学療法士を育成し、臨床現場へ送り出してきました。
若い理学療法士がさらに学び、挑戦し、成長できる環境をつくりたいという思いから、理事に立候補いたします。
これまで学会連合で学術の発展に携わる一方、兵庫県理学療法士会の理事として会員サービスの充実に取り組んできました。
兵庫県では会長のリーダーシップのもと、理事や会員が一丸となって改革を進め、会費の引き下げと研修会の無料化・充実を実現し、県学会には約１，２００人、会員の約２０％が参加するまでになりました。
一方、全国の学術大会では参加者が１，０００人に満たない大会も多く、約２０万人の理学療法士に対し、個々の大会への参加者は１％にも満たないのが現状です。
学術の成果を一部の研究者だけのものにせず、すべての臨床現場に届ける仕組みが必要です。また、認定・専門・登録理学療法士制度をはじめとする卒後教育を、若手が学びたいと思い、成長やキャリア形成につながる制度へと進化させる必要があります。
高齢化に伴いマルチモビディティへの対応が求められる今、疾患別に分かれた学術の成果を横断的に共有し、臨床に生かすことが不可欠です。
リハビリテーションが国の重要政策として期待される今こそ、協会には職能・政策活動に加え、学術と教育の視点を反映したリーダーシップが必要です。
私は協会年会費や学会参加費の負担軽減、オンライン配信、学術成果の共有を推進し、誰もが最新のエビデンスを学べる環境を整え、診療報酬改定や政策提言にも結びつけます。次世代を担う若い理学療法士に希望ある未来を残すため、学術・臨床・教育・政策をつなぎ、すべての会員が成長できる協会の実現に全力で取り組みます。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

・京都府理学療法士会　理事（２０１１年まで）
・兵庫県理学療法士会　理事（現在）
・日本呼吸理学療法学会　理事長　（現在）
・日本理学療法学会連合　理事（現在）



氏名　北谷　正浩

氏名ふりがな　きたたに　まさひろ

都道府県士会　石川県

年齢　66

勤務先名称

立候補の趣旨

石川県理学療法士会の理事・会長として、士会運営や市町からの委託事業、伴走支援に携わってきました。公立病院では急性期から生活期までの理学療法に加え、通所・訪問リハの運営、地域包括ケア病棟の立ち上げ、地域での介護予防事業に取り組みました。現在は地域包括支援センターや訪問看護ステーションで活動しています。協会の部会運営の経験も生かし、会員の活動を支えるため、理事に立候補します。
１．災害リハビリテーション体制の強化：石川ＪＲＡＴでの能登半島地震の受援・調整の経験を全国の士会と共有し、ＪＲＡＴと人材育成や派遣・受援体制の整備を進めます。災害医療を担い、災害関連死の防止に努め、現場の課題を国への要望に反映します。
２．介護予防・自立支援の推進：「攻めの予防医療」の観点から、高齢化が進む能登での実践を生かし、住民主体の介護予防活動を広げます。会員が市町と協働し、通いの場などで担い手を育て、活動の継続を支えられる仕組みを整えます。
３．公的医療機関の人材確保と機能強化：全国国民健康保険診療施設協議会（国診協）の調査研究委員会での経験を生かし、自治体や医療機関と連携して理学療法士の確保・定着を支援します。施設内で理学療法を担うとともに、地域に出向き、その実情に応じた介護予防や生活支援に取り組める人材を育成します。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

【日本理学療法士協会】
平成１０～１３年度　保健福祉局　東海北陸ブロック部長
平成２６～２９年度、令和４～５年度、令和８年～　代議員（石川県）
令和３～４年度　新組織検討委員会　選挙制度検討小委員会　委員
令和３～６年度　地域包括ケアシステム推進部会　部会長
令和７年度　介護予防領域業務推進部会　部会長
令和８年～　地域支援・総合事業推進部会　部会長
【石川県理学療法士会】
平成７～令和２年度　保健福祉局（地域リハ部長・理事）、副会長を歴任
令和３年～　会長



氏名　　高倉　保幸

氏名ふりがな　たかくら　やすゆき

都道府県士会　埼玉県

年齢　　63

勤務先名称　　埼玉医科大学保健医療学部

立候補の趣旨

日本理学療法士協会の使命は、定款に定められているとおり、わが国の理学療法の普及向上を図り、国民の医療・保健・福祉の増進に寄与することです。その実現には、多くの理学療法士が自発的に学び、力を発揮できる環境が欠かせません。

協会は多くの先輩方の尽力によって発展してきました。一方、会費負担などから加入や継続をためらう声があり、特に次代を担う世代が協会から遠ざかることに危機感を抱いています。

私は、厚労省委託事業として始まったがんのリハビリテーション研修運営委員会とリンパ浮腫研修運営委員会の発足時に協会の推薦を受けて委員となり、その後、副委員長として現在まで活動してきました。両委員会が企画した研修の修了者は全国で延べ約８万人に達し、がん・リンパ浮腫のリハビリテーションの普及に貢献してきました。

この経験を他領域にも広げたいと考えています。協会と分科学会が連携し、普及・教育・共同研究・臨床への還元という循環を構築します。学会発表や論文に至らない自発的な研究活動も資格更新ポイントで評価することを検討し、将来的には研究参加への経済的支援も充実させます。

また、短時間でも協会活動に参加できる機会を広げ、実務への適切な対価と自治体事業の受託などによる財源確保を目指します。

さらに、今年度就任したリンパ浮腫学会の保険委員長・内科系学会社会保険連合の委員として、理学療法の専門性が診療報酬に適切に反映されるよう努めます。

これまでの経験を協会全体の発展と国民への貢献に生かしたいと考えています。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

埼玉県理学療法士会：理事・学術局長（２００１～２００５年）、公益社団法人検討委員会委員長（２０１１～２０１５年）。日本理学療法士協会：がん理学療法部門運営幹事代表（２０１５～２０２１年）。日本がん・リンパ浮腫理学療法学会：理事長（２０２３～２０２６年）、理事（２０２６年～）。日本理学療法学会連合：理事（２０２３～２０２６年）。



氏名　　斉藤　秀之

氏名ふりがな　さいとう　ひでゆき

都道府県士会　東京都

年齢　　60

勤務先名称　　（公社）日本理学療法士協会

立候補の趣旨

私は、理事候補者選挙に立候補いたします。これまで理事１期、副会長４期、そして会長として３期にわたり、本会の発展と予防・医療・介護・福祉を巡る諸課題の解決に全力で邁進してまいりました。特に直近の任期においては、厚生労働省への「リハビリテーション統括調整室」の設置や、「骨太の方針２０２６」へのリハビリテーション推進の明記を実現し、無資格者による不適切な名称使用に対する毅然とした発信など、本会の社会的信頼と制度的基盤を強固にする取り組みを行ってまいりました。また「理学療法士及び作業療法士法」改正に向けた体制の本格始動や、外部理事導入等のガバナンス改革の断行に加え、「攻めの予防医療」の推進による職域・地域社会への職能強化・拡大、ＤＸ推進を含む会員サービスの向上にも着手いたしました。理事として、これまでの挑戦で蓄積した成果と確かな推進力をさらに深化させ、本会の持続的成長と理学療法士の社会的価値の最大化を実現するため、今後は「法改正の結実と次世代を拓く育成体制の強化」「職能の更なる強化・拡大と国内外での社会的価値の創出」「日本理学療法学会連合との緊密な連携推進」「他団体・関連機関との連携による理学療法の社会実装」の４点に全力で取り組みます。これまでの経験と実績に甘んじることなく、果敢な挑戦を続けることで本会の価値を高め、社会に真に欠かせない存在へと更なる発展を目指します。代議員各位におかれましては、私への絶大なるご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

協会役員歴は、平成２３年６月より理事・教育局長、平成２５年６月に副会長（生涯学習機構担当）、平成２７年６月に副会長・専務理事、平成３０年６月から常勤専従副会長、平成３１年６月より生涯学習担当業務執行理事を兼務、令和３年６月から常勤専従会長です。士会役員歴は、石川県理学療法士会理事（平成７年４月～平成９年３月）、平成１７年４月より茨城県理学療法士会理事、副会長・地域医療福祉局局長（平成１９年４月～平成２１年３月）、副会長（筆頭）・社会・職能局長（平成２１年４月～）、会長（平成２３年５月～平成３０年６月）です。



氏名　岡持　利亘

氏名ふりがな　おかじ　としのぶ

都道府県士会　埼玉県

年齢　60

勤務先名称　霞ヶ関南病院

立候補の趣旨

岡持利亘（おかじとしのぶ）です。埼玉県川越市の霞ヶ関南病院に３８年間勤務し、現在は県から受託している地域リハビリテーション・ケア　サポートセンターのセンター長を務めています。県内の医療機関・介護事業所に所属するリハ専門職が市町村事業で活動できるよう、派遣の調整と後方支援を担っています。　埼玉県理学療法士会では職能担当の副会長として、会員の研修、働きやすい職場づくり、推進リーダー実務コースなど県独自の人材育成に取り組んできました。２０１６年には県内のリハ専門職団体とともに（一社）埼玉県リハビリテーション専門職協会を設立し、代表理事として地域リハビリテーションの活動を続けています。　協会理事としては、２０２５年度まで、都道府県士会による就労世代の保健活動や産業理学療法の事業化への伴走支援（地域保健総合推進事業）を担当しました。現在は、地域支援・総合事業推進部会の担当理事として、介護予防・地域ケア会議推進リーダー制度を見直し、令和９年４月に始まる新制度の準備を進めています。前期研修を終えた３年目から学べる推進メンバーを設け、地域包括支援センター、短期集中予防サービス、県・広域支援に対応する中級・上級研修を新設します。　次の任期では、この制度を都道府県士会の皆さまと一緒に動かし、市町村とつなぎ、各地の活動を支える段階へ進めます。若い会員が地域で新たなキャリアと活躍の機会を得られるよう、また国民が「住みなれた地域で、その人らしく、安心して暮らし続けられる基盤づくり」に理学療法士が役立てるよう、尽力します。どうぞよろしくお願いいたします。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

２００７年６月～現在：埼玉県理学療法士会　職能局長・副会長
２００９年６月～２０２３年６月：日本理学療法士協会　代議員
２０１３年６月～２０２２年６月：日本理学療法士協会　議事運営委員会
２０２２年６月～現在：日本理学療法士協会　地域包括ケア推進部会
（現　地域支援・総合事業推進部会、担当理事）
２０２３年６月～現在：日本理学療法士協会　理事（現在２期目）
診療報酬改定対策強化推進部会、法改正検討特別委員会の構成員



氏名　西山　知佐

氏名ふりがな　にしやま　ちさ

都道府県士会　愛知県

年齢　55

勤務先名称　名南病院

立候補の趣旨

昨年の理事退任後より一会員として過ごしてきましたが、この間に知人より理学療法士は給料面で魅力のない職業だと言われ、残念に思いました。理学療法士はやりがいのある職業ですが、給料面では恵まれているとは言い難いのが現状です。私達にとっても周りの方々から見ても魅力的な職業と評されるには行動しなければならないと思い、理事選挙に立候補いたしました。
給料を含めた処遇改善については、関係者の方々のご尽力により加算が付くようになりましたが、他業種ではそれ以上に賃上げされ、物価高の影響も加わり、経済的に余裕のない方も少なくないと思います。協会は現在も改善に向けて活動していますが、さらに進めるためには職域の拡大や防衛、質の向上が必要であると考えます。従来からの診療報酬や介護報酬に関連した内容はもちろんですが、保険制度にとらわれない新しく、かつ多様な分野の創出、質を担保するためのインセンティブも必要だと思います。そしてこれらを実現させるためには組織的な団結を図ることが不可欠であり、協会の意思統一、会員はもちろんのこと、非会員からの信頼獲得、協会と都道府県士会との連携、政治関係者との連携等が必要です。
時代に合った理学療法士像を探りながら、会員の皆様のために、社会に貢献するために汗をかいて活動したいと考えています。ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

【士会役員歴】　平成１４～２３年　健康福祉部長
平成２３～２６年，２９年～３０年　愛知県理学療法士会　理事
（白書委員長　災害対策委員長　表彰委員長）
【協会役員歴】　平成２３年～２８年　白書委員、平成２６～２９年　代議員
令和３～６年　理事



氏名　　山本　理恵子

氏名ふりがな　やまもと　りえこ

都道府県士会　北海道

年齢　　43

勤務先名称　　北海道大学

立候補の趣旨

昨年、寝たきりだった父は、亡くなる直前まで理学療法士にお世話になりました。家族としても、人生の最期まで暮らしを支える理学療法士の存在の大切さを実感しました。必要な人に理学療法を届けるには、私たち自身の働く環境に目を向けることが欠かせません。私は、協会の国際活動で多国間の協働事業の主催・運営に携わり、本務では国内外での臨床、専門学校や大学での養成教育、新規テクノロジー開発・実証研究、ＷＨＯとの研究エビデンス社会実装等を通じ、現場を起点に活動してきました。経験や国内外ネットワークを活かし、会員の皆さまとともに、次の三つに取り組むため、理事に立候補いたします。
【①　理学療法士の職域拡大・開拓とダイレクトアクセスを目指す】
都道府県士会等と地域ニーズを把握し、国内外の良実践・研究エビデンスから、理学療法診療、予防、学校・産業保健で担える役割を検討します。ダイレクトアクセスは、日本の制度や多職種連携、海外の導入プロセス・成功事例を踏まえ、協会の議論を支援します。
【②　新規・既存テクノロジーの現場での利活用と患者の自立支援】
ＡＩによる情報分析や臨床判断・記録の支援、ロボットや支援機器、センサー、遠隔支援等の効果・限界を踏まえ、学会や開発者と連携し、活用方針づくりと教育の充実、実践の海外発信に取り組みます。患者の自立支援と会員の身体・業務負担の軽減を目指します。
【③　建設的な議論と円滑な意思決定を支える環境づくり】
情報・エビデンスを集約し、建設的な議論と意思決定を支える環境づくりに尽力します。性別、年齢、障害の有無にかかわらず、理学療法士一人一人がライフコースを通じて自分らしいキャリアを築き、働きがいを持って安全に働き続け、その専門性が国民の皆さまの健康と暮らしを支える社会を目指します。ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

２０２１年ー現在	日本理学療法士協会	他国協会との関係醸成作業部会　部会長
２０２１年ー現在	〃	アジア人材育成事業部会　部会員
２０２１年ー２０２４年	〃	グローバルプロジェクト運営部会　部会員
２０１９年ー２０２１年	〃	アジア教育支援委員会　委員
２０１７年ー２０１９年	〃	国際研修実行小委員会　委員

監事候補者

定　数：　2名

立候補者数：　2名

備考：掲載順序は、立候補届受付順（最終申請日時順）としています。



氏名　　太田　誠

氏名ふりがな　おおた　まこと

都道府県士会　北海道

年齢　　67

勤務先名称　　日本医療大学　月寒本キャンパス

立候補の趣旨

我が国における理学療法士を取り巻く環境の変化は、年々その速さを増し内容も多様化しています。協会は、公益法人として国民に貢献し、かつ職能団体として会員を守っていかなければなりません。そのためには、全ての会員が本会の理念の元で一つになり進んでいくことが重要です。本会の理念である、すべてのひとの健康と幸福を実現するために「尊厳ある自立」と、その「くらし」を守り、「真に求められる理学療法科学の探求と創造、そして自らの技能と資質の向上に努力する」、「必要な提言や社会的行動を精力的に行う」を今一度、会員の皆様と共に認識し、協会の事業運営に携わらせていただければと思います。

私は、本会の監事として平成２７年度から６期１２年、また北海道士会においても３６年間にわたり役員を務めてまいりました。これまで培ってきた経験と知識を本会のために引き続き役立てたいとの思いから、監事候補として立候補いたしました。

本会が今後も国民から信頼され、会員一人ひとりがこれに応えられるよう、安定した事業運営を継続していくためには、適正かつ透明性の高い運営が重要であると考えております。微力ではございますが、これまでの経験を生かし、監事として責任を持って職務を果たし、本会の発展に貢献できるよう全力で取り組んでまいります。皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

昭和６０～令和２年度　北海道理学療法士会　理事
平成１７～平成２０年度　北海道理学療法士会　副会長
平成２１～令和２年度　北海道理学療法士会　会長
平成２１～令和２年度　日本理学療法士協会　北海道ブロック代表会長
平成２７～令和８年度　日本理学療法士協会　監事



氏名　　櫻田　義樹

氏名ふりがな　さくらだ　よしき

都道府県士会　岩手県

年齢　　64

勤務先名称　　訪問リハビリテーション振興財団

立候補の趣旨

監事の櫻田でございます。平素より、本協会の発展と理学療法士の地位向上のためにご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

これまで３期にわたり監事を務め、「公正・中立」の立場を堅持し、透明性の高い監査を心掛けながら、財務基盤の健全性ならびに各事業の適正な執行状況を確認し、協会のガバナンス強化に努めてまいりました。４期目の立候補にあたり、これまでの経験を活かし、会員からお預かりした大切な会費が、組織強化をはじめとする課題解決や、未来を担う理学療法士のために、適正かつ効果的に活用されているか、より一層丁寧で実効性のある監査に取り組んでまいります。また、常に会員の目線を大切にするとともに、４７都道府県士会と連携し、それぞれの地域が抱える課題や会員の声を共有しながら、全国の理学療法士が一体感を持てる協会運営を支えて行きたいと考えております。そして、多様化する社会のニーズにも柔軟に対応できる「健全で温かみのある協会運営」の実現を目指してまいります。

これからも執行部から独立した視点を保ち、客観性と専門性をもって監事としての責務を果たし、信頼される協会運営の実現に向けて、厳正な職務の遂行に努めてまいります。

皆様のご信任を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

役職歴（協会・士会・学会連合等）

【日本理学療法士協会】
・委員会等（２００７～２０２０）
　代議員、東北ブロック協議会理事（代表会長）、グランドデザイン構築委員会
　（医療部会）、職能担当委員会、災害対策本部、急性期における活動推進検討会、
　士会強化推進委員会、公的保険外委員会、懲戒委員会、選挙管理委員会
・第５０回全国学術研修大会大会長（２０１５）
・第４５回代議員総会議長（２０１６）
・監事（２０２１～）
【岩手県理学療法士会】
・理事（１９９５～２０１８）　・会長（２００７～２０１８）